

【第2回豊能医療・病床懇話会資料】

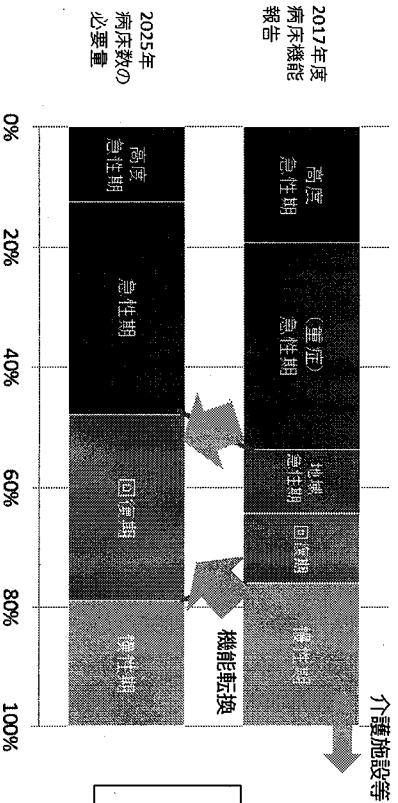
将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)とアプローチ(豊能二次医療圏)

- 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案) について
 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングする。

病床機能報告の最終集計から、病床数の必要量における「回復期機能を担う病床数の確保」には、他の病床機能から約9%程度同機能への転換が必要と推計

○ 病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期				回復期	慢性期	休養等	合計	【備考】未報告等
			(重症)急性期	軽症(不期)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	1,746	4,072	3,117	0	955	1,066	2,175	0	9,059	25
				3,117	3,117	2,021					
				34.4%	0.0%	10.5%	11.9%				
病床機能報告(割合)	2017	19.3%	35.2%	34.4%	0.0%	10.5%	11.9%	24.0%	0.0%	100.0%	
		↓6.8%		↑0.8%		22.3%		↓2.9%			
病床数の必要量(割合)	2025	12.5%	35.2%					21.1%		100.0%	
	2025										
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	1,133	3,192			2,823		1,911		9,059	
【参考】病床数の必要量(2013年の需要をベースとした病床数)	2025	1,436	4,044			3,577		2,421		11,478	



病床機能報告(地域急性期+回復期)と病床数の必要量(回復期)の割合の差 8.9%

【参考】 将来に向けて回復期への転換が必要な病床
 9,059 (2017年度報告病床数総計) × 8.9%
 二約 810床

2025年
 病床数の
 必要量

2017年度
 病床機能
 報告

【参考】病床機能報告（2017年度暫定集計）と病床数の必要量の比較

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	重症急性期	急性期（不明）	地域急性期	回復期	慢性期	休養等	休養等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	1,294	3,304				2,748	2,169				9,515
病床機能報告	2014	1,802	3,900				354	1,971	314		339	9,240
病床機能報告	2015	1,772	4,067				811	2,149	148		291	9,238
病床機能報告	2016	1,775	3,990				966	2,057	61		373	9,222
病床機能報告	2017	1,746		1	3,117	0	1,066	2,175	0		196	9,084
病床数の必要量	2025	1,436	4,044				3,577	2,421				11,478
					合計							3,901

区分	年度	高度急性期	急性期	重症急性期	急性期（不明）	地域急性期	回復期	慢性期	休養等	休養等	未報告等
病床機能報告	2017	19.6%			35.1%	0.0%	8.8%	12.0%	24.5%	0.0%	—
病床数の必要量	2025	12.5%	35.2%				31.2%		21.1%		

サマリアキュート・ホストファミリー
I/Iハビ機能の現状と将来の予測

